

# 生徒による授業評価結果分析

## < 質問項目 >

- Q1.毎時間の授業や単元（内容のまとめ）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
- Q2.単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
- Q3.単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。
- Q4.授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
- Q5.他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
- Q6.授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
- Q7.授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
- Q8.授業をより深く理解するために、主体的に予習、復習、課題等に取り組んでいる。

国語	Q3「単元の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある」では、かなり当てはまると答えた生徒が全体平均を約5%超えており、思考力・判断力・表現力を育むような授業づくりができていていると考える。また、Q8「授業をより深く理解するために、主体的に予習、復習、課題等に取り組んでいる。」について、「かなり当てはまる」と答えた生徒が17.2%と割合が少ないことが教科としての課題として挙げられる。この課題の改善を目指し、生徒が主体的に予習・復習に取り組めるような学習ツール（Googleクラスルームやクイズレット等）を活用していきたい。
社会	ほとんどの質問項目に対して、肯定的な回答が多数を占めている。特にQ6「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」、Q7「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」については、比較的高い数値を残しており、学年の進行に伴って、地歴および公民の総合的な知識や思考力が高まってきていることが考えられる。またQ1、Q2、Q3、Q4、Q5についても、比較的高い数値を残しており、学習内容に関する対話や振り返りの成果であると考えられ、今後も継続していきたい。Q8に関しては、今後とも定期的に家庭学習や学習課題を行う中で、より生徒の主体的な学習に取り組ませるように努めていく。
数学	全体と比較すると、「ほとんど当てはまらない」の割合が小さく、「かなり当てはまる」の割合が大きい。したがって、全体と比較すると主体的に授業に参加している生徒が多いと言える。 Q8「授業をより深く理解するために、主体的に予習、復習、課題等に取り組んでいる。」について、「かなり当てはまる」と答えた生徒が3年、1年、2年の順で割合が少ないことが教科としての課題として挙げられる。この課題の改善を目指し、生徒が主体的に予習・復習に取り組めるような工夫をしたい。
理科	全体と比較すると、「ほとんど当てはまらない」の割合が小さく、「かなり当てはまる」の割合が大きい。したがって、全体と比較すると主体的に授業に参加している生徒が多いと言える。特にQ7のポジティブな回答の割合が高いのは、Google Classroomを積極的に活用し、自宅学習と対面授業の連携を図ったことが良かったと考えられる。課題としては、Q8のネガティブな回答が多いため、特に自宅での日常的な復習時間確保を充実させたい。
保健体育	設問内容が体育に該当しないものもあるが評価は全体的に良いと感じた。特に生徒が自主的に取り組み、授業を楽しめているという評価であると感じた。Q8については1、2年生の保健が関係するがアンケートを分けないと当てはまらないの割合が多い。 ・体育においては生徒同士での学び合いを増やすなど、主体的な授業展開となるような工夫を更に行っていくことが必要となる。 ・多くの生徒が意欲的に取り組んでいるという実態を生かし、更に生徒が積極的に取り組む授業の内容を工夫していく。 ・保健授業に関しては、1単位でありアクティブラーニングなどを積極的に取り入れることがなかなか難しいが必要な項目での導入の工夫わして授業改善に努める。
芸術	Q1とQ8については、「ほとんど当てはまらない」の割合が他の質問に比べて少し高い傾向にあった。Q1については、教養として、幅広い内容を扱う芸術科の科目として、単元ごとのねらいや到達目標を実感しにくい面もあるのかもしれないと感じた。多くの生徒が学習のねらいや振り返りを実感しながら、目的意識を持って授業に取り組むことができるように工夫していきたい。またQ8に関しては、家庭学習の充実や生徒が意欲を持って取り組むことのできる課題づくりにさらに励んでいきたい。Q4の「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。」という質問では、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高かったため、引き続き座学との配分を工夫しながら、題材等の工夫をしていきたい。
英語	Q2の割合が高い理由として、グループワークやペアワークを通じて取り組み効果的に学ぶことができたためであると考え。また、ペアワークを通じて他者の考えを知ることが十分にできたと考え。Q8では課題への取り組みが不十分であると答える生徒が多かったため、工夫して課題を用意する必要があると考え。
家庭	Q2「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」の割合が低いことから、グループワークを通しての学び合いや夏休み課題を発表し合うなどの時間を取り入れ改善を図りたい。また今年度は実習や実験等を実施することができなかつたため、身に付いたことやできるようになったことを実感させる機会も少なかった。今後はそれらに代わる教材や授業展開、課題の出し方等もさらに工夫し、座学だけでも対応できる授業を検討していく必要がある。
情報	全体的に「ほぼ当てはまる」の割合が多く、生徒が意欲的に授業に取組めたと考える。特にQ4では、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができる」と答えた生徒は8割以上おり、知識の定着だけでなく、技能面で充実した授業を行うことができたのではないかと感じる。また、Q7が多いのは、単元ごとの繋がりを意識し、復習を多く行った結果が表れたのではないかと考える。課題としては、Q8の割合が他と比べると否定的になっているので、授業をより深く理解するためにClassroomの活用や定期的に課題等を行い、学習に取組みやすい環境づくりを整えていきたい。